



継続し、拡げるために、あなたのご支援を！

活動支援金を募っています！一口500円です。

振込先：ゆうちょ銀行
記号番号：00980-1-195311
店名・種目・口座番号：〇九九店（店番099）・当座・0195311
名義：こどもひかりプロジェクト応援基金
※ご支援くださった方のお名前はホームページに掲載いたします。
希望されない場合は通信欄にその旨記載ください。



全国のミュージアムが東日本大震災被災地の子どもたちを応援するために集まりました！

Kodomo Hikari Project
~Museum Collaboration for Children in Tohoku Region~

応援メッセージ!!
Advisors

環境水族館アクアマリンふくしま
館長 安部義孝
Yoshitaka ABE, Aquamarine Fukushima
原子力発電所の爆発は、人類への警鐘です。私たちは、海山川の、子どもたちの身近な自然環境がすでに危機的状態になっていることを知っています。
さらに放射能汚染が加わっても、私は、驚きません。これを水の惑星の環境改善の引き金にしなければなりません。環境水族館アクアマリンふくしまは、「海を通して人と地球の未来を考える」の理念のもとに、環境メッセージを世界に発信し続けます。

兵庫県立人と自然の博物館
名誉館長 岩槻邦男
Kunio IWATSUKI, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo
誰でも一生の間にはいろんなできごとに出会います。いいこともあれば、ひどいこともあります。人がつくれたできごともありますし、自然に生じたものもあります。そして、どんなできごとに出あっても、人はみんなで協力して生きる術を知っています。そうやって、人間は美しい世界を育ててきました。現在を生きるわたしたちも、みんないっしょに協力して、よりよい地球を育てたいものです。大人も子どももいっしょに楽しみ、学んで。

公益財団法人 大原美術館
理事長 大原謙一郎
Kenichiro OHARA, Ohara Museum of Art
「誰かの役に立ちたい」という活動の力は、多くの人たちを支え、社会全体を明るく滑らかにしています。阪神淡路の大震災の時、私たちはこれを実感しました。その時支えられた関西の人たちや、それに共感した全国の志高い人たちの思いが結集した一つの場が「こども☆ひかりプロジェクト」です。このプロジェクトが、被災地の子どもたちや大人たち、そして、全国各地で苦難に直面している多くの人たちの力となるよう期待しています。

九州国立博物館
館長 三輪嘉六
Karoku MIWA, Kyushu National Museum
みなさんの笑顔こそが、復興への道を開きます。苦しい中、困難な中にみる子どもたちの笑顔、本当にホッとする一瞬であり、何か救われる大事な一刻です。復興に向けたさまざまな努力に、いつも子どもたちの明るい目差しが向けられていることは大きな励みになります。皆さんもそんな有様をしっかりと記憶に残すことが次の困難に立ち向かうときの大きな糧になるはずです。いま、子どもたちの笑顔こそ、明日のために進み続ける人達の元気の源であり、復興への大きな道標となっていることを信じています。

日本科学未来館
館長 毛利 衛
Mamoru MOURI, National Museum of Emerging Science and Innovation
「地球生命としてのつながり」
46億年まえ、太陽とともに地球は生まれ、40億年まえ、海に生命が生まれました。その生命の多様化の中で、私たち人類が誕生しました。私たち一人一人が地球生命の細胞。様々な地球環境変化の試練を乗り越え与えられた環境で輝き、ともに地球生命を未来へつなげましょう。

仙台市長
奥山恵美子
Emiko OKUYAMA, the Mayor of Sendai
ミュージアムは、大人も子どもも、みんなのワンダーランド。「なぜ?」「どうして?」「わかった!」「見つけた!」。楽しそうな声ははじけます。未来に向けて伸びていく子どもたちが、元気いっぱい、好奇心いっぱいに育つように。そんな思いとともに、被災地にミュージアムのパワーが広がることを願っています。



こども☆ひかりプロジェクト

事務局

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館
TEL：090-9119-2005 (代表：清水) E-mail: amk@kodomohikari.com

こども☆ひかりプロジェクト
www.kodomohikari.com

公益財団法人 石橋財団
ISHIBASHI FOUNDATION
このパンフレットは、公益財団法人 石橋財団の寄付助成により作成しました。



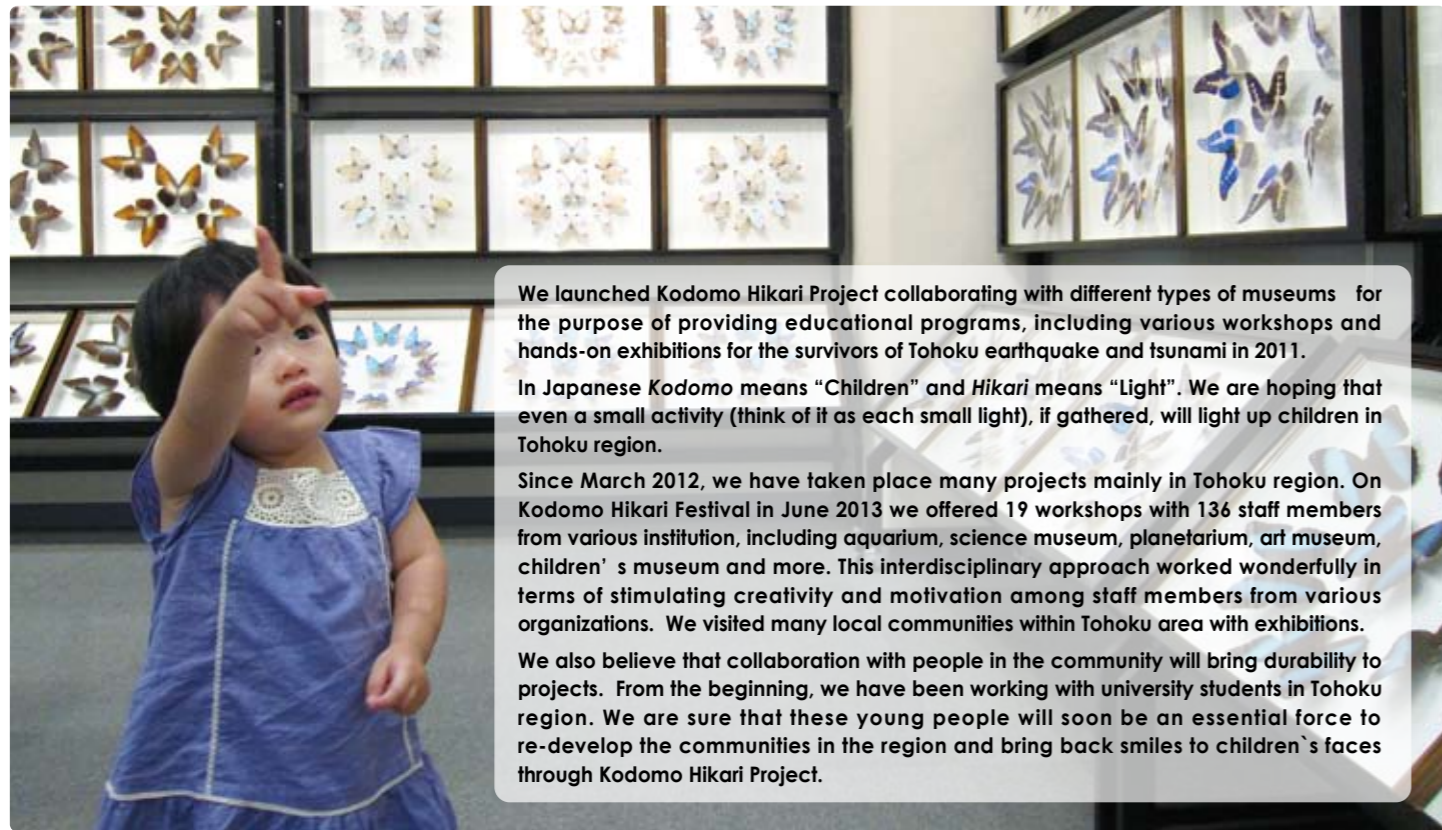
©Fumiko Iyori
Printed by CIA CORPORATION
ver.1.3 2013年12月1日発行

ごあいさつ

小さな子どもたちが、あの怖かったらう地震での苦しみや悲しみから立ちあがろうとするとき、ささやかでもだれかが応援していることを伝えたい。いっしょに歩きたい。そして、子どもたちが「夢・希望」を安心して抱ける、勇気をプレゼントしたい。日本中のミュージアムが、大きく子どもたちの可能性を引き出してくれる。地域で生きる子どもたちがミュージアムからのエネルギーで元気づき、まわりの大人たちも共に勇気がわいてくる。そんなプロジェクトでありたいと願っています。

こどもひかりプロジェクト代表 清水文美
Ayami SHIMIZU, Organizer





We launched Kodomo Hikari Project collaborating with different types of museums for the purpose of providing educational programs, including various workshops and hands-on exhibitions for the survivors of Tohoku earthquake and tsunami in 2011.

In Japanese Kodomo means "Children" and Hikari means "Light". We are hoping that even a small activity (think of it as each small light), if gathered, will light up children in Tohoku region.

Since March 2012, we have taken place many projects mainly in Tohoku region. On Kodomo Hikari Festival in June 2013 we offered 19 workshops with 136 staff members from various institution, including aquarium, science museum, planetarium, art museum, children's museum and more. This interdisciplinary approach worked wonderfully in terms of stimulating creativity and motivation among staff members from various organizations. We visited many local communities within Tohoku area with exhibitions.

We also believe that collaboration with people in the community will bring durability to projects. From the beginning, we have been working with university students in Tohoku region. We are sure that these young people will soon be an essential force to re-develop the communities in the region and bring back smiles to children's faces through Kodomo Hikari Project.

ミュージアムの魅力で、子どもたちが明るく元気に 希望・夢を描くことができるよう、 これからもつながり、広がっていきます！



ミュージアムは、地域の人々の文化活動、自然、歴史などを未来に継承し、地域の人々が活用することを通して、みんなの生活を豊かにしていくことを目指しています。そのために、次世代を担う子どもたちにこそ、美しいもの、不思議なもの、楽しいことに触れ、感じてほしいと願い、日々、活動に取り組んでいます。そしてその体験が、子どもたちが明日を伐り拓くための糧となると私たちは確信しています。ひとつの資料、ひとつのワークショップ、ひとつひとつは小さな活動かもしれませんが、小さな光が

集まって、大きな光となるように、子どもたちの心を照らすことができれば、そしてまた、その子どもたち自身が、未来に向けての希望の光となってくれればと願います。

「こども☆ひかりプロジェクト」は、2012年3月、本格始動しました。ミュージアムは、子どもたちに夢と希望を提供します。子どもたちの笑顔は、地域社会を明るくします。子どもたちの笑顔や若者のエネルギーで、ミュージアムも元気になります。私たちは、2年間の実践で、このことを実感し、プロジェクトを発展させる必要性を強く感じました。

【これまでの活動で運営に携わった方または講師や協力者としてお世話になった方】(50音順)

浅野 雄、阿部 薫、天野和彦、池内一誠、池上 雅、池田 大、石井鉄雄、石川梨絵、石森昌子、泉田佳代、一井弘行、井上 毅、伊従史子、岩瀬邦男、上野知彦、上原智行、牛田康弘、海原靖子、遠藤幸栄、大野裕朗、岡田可斗子、岡野麻衣子、小川紗弥子、奥山恵美子、小関高明、落合裕美、鬼本佳代子、笠木俊一、数本芳行、釜瀬進一郎、蒲池昌江、川野智美、川延安直、菊池正昭、北澤宏一、久保暢宏、熊谷香菜子、栗原真理、黒川周子、小石川正弘、小館誓治、小林めぐみ、小林慧人、齋藤義朗、酒井夕子、阪上光希、佐々木ひかる、佐藤一信、佐藤賢治、佐藤 淳、佐藤陽一、塩澤仁行、柴野志保、清水文美、白石大作、鈴木和子、鈴木啓子、鈴木典秋、須藤恭子、曾山明慶、高瀬優子、高田浩二、武 幸太郎、竹谷陽二郎、嶽山洋志、田中 馨、田中慎悟、田中弘子、谷村優太、玉井幹司、塚本健司、土屋和美、寺村たから、時政典孝、常盤由佳子、徳永あずさ、富田知宏、中澤堅一郎、中山 敏、永山多貴子、名久井正廣、根本もえ、橋本ゆう子、林川重幸、原 明日香、藤井千春、藤田大悟、布施静香、古川 健、古谷 裕、細川真理恵、前田 慧、前田 慈、松田万緒、松永真理子、松村淳子、水嶋英治、水谷亜希、宮崎元晴、三輪嘉六、村田真知子、毛利 衛、物江斗木夫、森野光太郎、八木 剛、八尋智之、矢吹大地、山川 暁、山下治子、吉岡朋子、和田かおり、渡辺こずえ

【所属】(50音順、所属は当時)

愛知県総合児童センター、愛知県陶磁美術館、(有)アイツワ・アソシエイツ、NPO法人あおもり NPO サポートセンター、明石市立天文科学館、明石市立文化博物館、アクアマリンふくしま、(株)アム・プロモーション、石橋美術館、岩手県立博物館、(株)内田洋行、海の中道海洋生態科学館、大原美術館、独立行政法人科学技術振興機構、加古川天文台、独立行政法人環境再生保全機構、キッズプラザ大阪、九州国立博物館、九重ふるさと自然学校、ケニス株式会社、神戸ファッション美術館、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、郡山市立美術館、国立民族学博物館、NPO法人こどもとむしの会、こどもひかりプロジェクト、佐用町生涯学習課、シーアイエー(株)、集英社小学館アカデミー、新江ノ島水族館なぎさの体験学習館、仙台市科学館、仙台市太白山自然観察の森、仙台市長、仙台市図書館、仙台市立田子中学校、仙台市六郷児童館、田村市天文台、田村市立古道小学校、NPO法人テイクオフみざわ(青森県立三沢航空科学館)、常盤大学、長崎県美術館、(株)日清製粉グループ本社、日本科学未来館、白鶴美術館、ビッグバレットふくしま避難所記刊行委員会、姫路科学館、兵庫県立淡路景観園芸学校、兵庫県立人と自然の博物館、福岡アジア美術館、福岡福岡県人会、福島県立博物館、福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館、ふくしま森の科学体験センター「ムシテックワールド」、物流博物館、船の科学館、(株)リバネス、run♪run♪plaza

これまでの活動の一部をご紹介します。

くわしくはホームページで
<http://www.kodomohikari.com>

1 フェスティバル・キャラバン Festival and Mobile Museum

生きもの、科学、アート、文化・・・子どもたちの好奇心に、境界はありません。全国のさまざまな分野のミュージアムが、よりすぐりのメニューを持ち寄って、子どもたちに夢の時間と空間をプレゼントしました。

2012年 仙台市科学館／福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ館
2013年 仙台市農業園芸センター／福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ館／岩手県立博物館／梁川天神社(伊達市)／いいいたて村文化祭／アエル(仙台市)

(助成：「子どもゆめ基金」「日本財団」、協賛：多数)



2 フォーラム・研究会 Conference

子どもたちのために、何ができるか。さまざまなミュージアム、関係者が集まって、話し合いました。



2012年 せんだいメディアテーク
2013年 日本科学未来館／九州国立博物館

3 2個にこプログラム Natural Gifts for Children in Fukushima

福島の子どもたちに、まつぼっくりやどんぐりをプレゼントしました。一人2個でも、たくさん集まったらみんながにこにこ。専門家の監修を得て、「物語」や指導者向け資料もつくりました。



(助成：「全労済地域貢献助成事業」)

4 ユースのみんなど Working with local university students

2年間で100名を超えるユーススタッフ(大学生)が、こども☆ひかりフェスティバルなどの運営に加わりました。2013年からは、ユース主体の活動に向けた取り組み「ミュージアムネットワークでユースの社会力UP!」プロジェクトを開始しました。ご期待ください。



【こども☆ひかりユース メインスタッフ】

池内至誠(早稲田大学)／小沼佳菜実(宮城教育大学)／萱場優紀(宮城教育大学)／嘉山央基(東北大学)／佐藤利昭(東北大学)／征矢彩香(宮城学院女子大学)／高野理子(桜の聖母短期大学)／竹部成海(桜の聖母短期大学)／中屋敷茅(東北大学)／服部修弥(宮城教育大学)／堀尾加奈子(奥羽大学)／三上 響(東北大学) (2013年11月現在)

(助成：「住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」活動・研究助成)